

## 「TURN フェス 2」参加アーティスト及び交流先の施設・コミュニティ

<b>・五十嵐 靖晃 × クラフト工房 La Mano</b>	
五十嵐 靖晃	
	<p>アーティスト。1978年千葉県生まれ。2005年東京藝術大学大学院修士課程修了。人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開。これまでのプロジェクトで、2005年にヨットで日本からミクロネシアまで約4000km、2012年に日本海沿岸をたどる約970kmの航海を経験。“海からの視座”を活動の根底とする。代表的なプロジェクトとして、樟の杜を舞台に千年続くアートプロジェクトを目指す福岡県太宰府天満宮での「くすかき」(2010～)や、漁師らと共に漁網を空に向かって編み上げ土地の風景をつかまえる「そらあみ」(瀬戸内国際芸術祭 2013・2016)などを多数地域で行う。熊本県津奈木町では海の上にある廃校を拠点にしたアートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」(2013～2016)の企画運営に携わる。TURN フェス (2016)、TURN in BRAZIL (2016)参加アーティスト。</p> <p><a href="http://igayasu.com">http://igayasu.com</a></p>
クラフト工房 La Mano	
	<p>東京郊外、町田市の小さな里山にたたずむ築90年の民家で障害のある人とない人を共に物づくりに励んでいる場所が「クラフト工房 La Mano」。工房は1992年に障害のある方の作業所として設立された。名称である「La Mano」は「手」の意味で、設立時に手しごとを中心とした物づくりで魅力ある製品を作り社会と繋がっていく、そんな思いで活動を続けている。現在の活動は大きく2つある。1つは染め、織り、刺しゅうなどのクラフト製品の制作。藍草木で染めた糸や布を使い、手織りマフラーなどの織り製品、草木染の糸を使った刺しゅう製品、藍染の鯉のぼりや手ぬぐいなど、自然の温かみを感じる製品を作っている。2つ目は2006年から始まったアート活動。小さなアトリエでいろいろな画材を使ってそれぞれが個々の豊かな表現活動をおこなっている。11年目を迎えた活動は着実に社会と繋がりがつつある。</p> <p><a href="http://www.la-mano.jp/">http://www.la-mano.jp/</a></p>
<p>絵：五十嵐 靖晃</p>	
<b>・池田 晶紀、川瀬 一絵 × 社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンター</b>	
池田 晶紀	
	<p>写真家。1978年横浜生まれ。1999年自ら運営していた「ドラックアウトスタジオ」で発表活動始める。2003年よりポートレート・シリーズ『休日の写真館』の制作・発表を始める。2006年写真事務所「ゆかい」設立。2010年スタジオを馬喰町へ移転。オルタナティブ・スペースを併設し、再び「ドラックアウトスタジオ」の名で運営を開始。国内外で個展・グループ展多数。アーティスト三田村光土里とのアートユニット「池田みどり」としても活動。</p> <p><a href="http://yukaistudio.com/">http://yukaistudio.com/</a></p>
川瀬 一絵	
	<p>写真家。島根県出雲市生まれ。2007年より写真家・池田晶紀の主宰する「ゆかい」に所属。テーマを定めずに衝動的に写真を撮り、それらを編集しながら衝動の訳を探るような作品づくりをしている。写真集のために家具を持ち込んで空間をしつらえた『粒と穴』(2015)、鑑賞者自らがスイッチを入れてあかりを灯すことで、投影される飛行機の光を見る『北風と太陽』(2016)等、写真に鑑賞者が立ち会う場の設定に重きをおいたインスタレーションを展開。</p> <p><a href="http://yukaistudio.com/?cat=22">http://yukaistudio.com/?cat=22</a></p>

社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンター



絵：池田 晶紀

リサイクル洗びんセンターは、「福祉と環境をつなぐ」「障害の種別を越えて」「高い給料」を掲げて1994年4月、東京都昭島市に誕生した。  
びんやリユースカップの洗浄、とうふの製造・販売、チラシセット作業、食品加工作業、軽作業、物品販売などの仕事に、現在85名の障害のある人が取り組んでいる。  
障害のある人がいきいきと働き、地域で安心して暮らしていける社会の実現をめざしている。  
<http://www.kyosaren.jp>

・今井 さつき × シューレ大学

今井 さつき



1988年神奈川県出身、横浜在住。2013年愛知県立芸術大学美術研究科デザイン専攻修了、東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻在籍中。  
体験者が作品を体験することで完成するコミュニケーションアートの制作や、日本の社会をテーマに制作を行う。  
代表作は、体験者の持ち物を万華鏡の姿に変える「Raybox」や体験者を巨大な海苔巻きレプリカで巻いて完成させる「人間ノリ巻き」など、その場に足を運ばなければ感じる事の出来ない体験・コミュニケーションを生み出している。  
<http://oxa-ca.jimdo.com/>

シューレ大学



絵：今井 さつき

1999年に必要とする若者たちと準備会をつくって生まれたオルタナティブ大学。履修すべきカリキュラムなどなく、一人ひとりが自分の教育をデザインし、自分の知りたいこと表現したいことに取り組んでいる。自分はどのように生きていきたいのか、お金とどんな風に付き合いたいのか、人や社会とどうつながるのが自分に合っているのかを模索する、自分に合った生き方を創り出す大学。通う日にちや関わり方も人に合わせて違った形をとっている。在籍期間も自分で決める。自分がこの自分で生きていけるなあと感じたら巣立っていくというような場である。18歳以上の若者達が30～40人で話し合いながら場の運営もしている。自分とは何者なのか、自分はどのように生きていけるのかを思い切り試行錯誤できる場でありたいと思っている。安心して人とつながり、だから存分に関心を探し、深められるのではないかと、そんなことを大切にしている。  
<http://shureuniv.org/>

・大西 健太郎 × 板橋区立小茂根福祉園

大西 健太郎



1985年生まれ。その場所・ひと・習慣の魅力と出会い「ころがおどる」ことを求めつづけるパフォーマー。東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了後、東京・谷中界隈を活動拠点とする。「風」をテーマとしたダンス・パフォーマンス作品の公演をおこなう。2011年に東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）と〈一般社団法人 谷中のおかって〉の共催によることも創作教室「ぐるぐるミックス」の立ち上げより、ファシリテーター、統括ディレクターを務める。2014年より〈風と遊びの研究所〉を開設。他者との共同創作によってつくり出す参加型パフォーマンス「風あそび」に取り組んでいる。  
<https://kentaronishi.wordpress.com/>

板橋区立小茂根福祉園

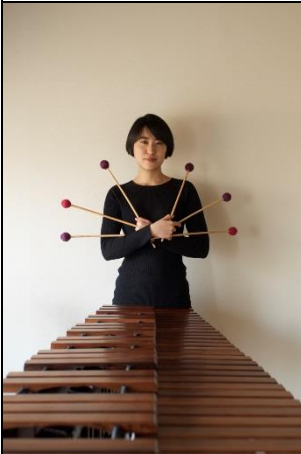


絵：大西 健太郎

小茂根福祉園は、かけがえのない個性豊かな社会の一員として「私らしく」住み慣れた地域で普通の暮らしができることを願い支援している。自分のやりたいことにチャレンジしたり、様々な人との関わりを通して、人とのつながりを感じたりすることで豊かな人生を送ることができると考えている。  
支援とは、転ばぬ先の杖ではなく、転んでもまた立ち上がることができるように、寄り添い共に歩むことだと考えている。  
生活介護サービスでは、日常の介護を行うとともに、創作活動や体の取り組み（PT訓練）、行事やアトリエ活動を行っている。就労継続支援B型サービスでは、「働く」という作業支援を中心に、生活支援、社会活動、行事やアトリエ活動を行っている。作業支援では、企業からの受注作業の他に、清掃作業や自主生産作業（コーヒーや手芸）がある。両方のサービスで行っているアトリエ活動では、イラストやアート活動を行っている。自主ブランド「KOMONEST」の商品の素材はここからたくさん生まれている。  
<http://www.komone-f.net/>

・角銅 真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター

角銅 真実



音楽家。マリンバを始め、打楽器 自作楽器 自身の声を用いての演奏活動の他、作曲家の新作初演・コンサートや各種レコーディング・ライブサポート(cero , Doppelzimmer , 野田薫 etc)、テレビ番組収録などの演奏活動、ダンス作品や映像作品への音楽提供や音楽制作、アートプロジェクトでの作品制作など演奏だけにとどまらない作家としての活動も展開している。

<https://manamikakudo.wordpress.com/>

大田区立障がい者総合サポートセンター



絵：角銅 真実

大田区立障がい者総合サポートセンターさぽーとぴあは、障害のある方のサポート「拠点」として、平成 27 年 3 月に開設された。障害のある方もない方も、ともに支えあう出会いとつながりが実現できるように、常に進化する施設を目指している。建物は、5 階建てで、《相談支援部門》《居住支援部門》《地域交流部門》《就労支援部門》の 4 部門がある。就労支援部門では、障害のある方が企業で安心して働き続けられるように定着支援を行っている。「たまりば」は、その定着支援のひとつで、毎週金曜日の夜に行っている。企業就労している方が立ち寄り、仲間と話したり、一緒に夕飯を食べたり、ゲームを楽しんだりそれぞれ自由に過ごしている。仕事の後、仲間と出会いほっとする場、明日からの元気をもらえる場になっているようである。更に、休日にカラオケに行ったり、飲み会に行ったり仲間づくりや生活の広がりやきっかけにもなっている。

<https://www.city.ota.tokyo.jp/>

・高本 敦基 × 社会福祉法人旭川荘

高本 敦基



美術家、2005 年フランス国立ナンシー高等美術大学大学院修了。

日常生活でみつける素材や行動の観察から社会と人間存在の繋がりを見いだす作品を制作するほか、地域の廃旅館をアトスペースにした活動『岡野屋旅館プロジェクト』や近年では小学校の教育現場と連帯した美術の取り組みも行っている。2014 年、第 17 回岡本太郎現代芸術賞特別賞、第 15 回岡山芸術文化賞グランプリ受賞。2015 年には福武文化奨励賞を受賞。主な個展に、『JUXTAPOSITION-平置思考-』（吹上美術館、岡山県倉敷、2015）、『組み立て式の社会』（奈義町現代美術館、岡山県奈義町、2016）、『フレデリック・タイラー氏に花束を』（石川県金沢市、2017）など。

<http://www.takamotoatsuki.jp/>

社会福祉法人旭川荘



絵：高本 敦基

旭川荘は 1956 年に開設した総合医療福祉施設。現在、岡山県と愛媛県において医療福祉分野、知的障害分野、身体障害分野、児童・高齢者分野、研修・研究分野で 85 の事業を展開している。旭川荘には乳幼児から高齢者まで、さまざまな障害のある人々が生活され、余暇活動や日中活動の一環として多様な作品制作に取り組まれてきた。現在も、絵画・造形・手工芸・音楽など、あらゆる領域で、障害の程度や年齢に関係なく、多くの利用者が芸術活動に取り組まれている。2010 年には「旭川荘アートギャラリー」を開設し、利用者の作品を常時展示することができるようになった。

<http://www.asahigawasou.or.jp/>

・永岡 大輔 × こども会議

永岡 大輔



1973 年山形県生まれ、東京都在住。 Wimbledon School of Art 修士修了後、国内外にて個展・グループ展による発表多数。

記憶と身体との関係性を見つめ続けながら、創造の瞬間を捉える実験的なドローイングや、鉛筆の描画を早回しした映像作品を制作する。制作の痕跡が意図的に残される作品は作者の記憶ばかりではなく、失われた時間の痕跡としての余韻を空間にもたらす。また、平面や映像作品以外にも、朗読体験を通して人々の記憶をつなげるプロジェクト『Re-constellation』による公演や、現在では、新しい建築的ドローイングのプロジェクト『球体の家』に取り組むなど、様々な表現活動を展開している。

<https://daisukenagaoka.jimdo.com/>

こども会議



絵：永岡 大輔

こども時代に真剣に考えた事と言うのは、長い時間を経て大人になった心にも届く。大田区内にある 3 つの子ども食堂(居場所)のネットワークから生まれたこども会議では、アーティストとこどもたちが一緒に社会や未来を考えながら、新たなイマジネーションに出会うプロジェクトを実施する。

・気まぐれ八百屋だんだん

東京都大田区東矢口にある居酒屋の居ぬきの場所を借りている八百屋、だけれどただの八百屋じゃない。ワンコイン寺子屋、英会話、読書会、読み聞かせ、ススム寺子屋、こども食堂等々を開催。みんなの居場所と出番を作り出す、民間型の文化センター。

・キネマフューチャーセンター

京急蒲田駅から徒歩 5 分「キネマ通り商店街」の空家をリノベーションして、地域コミュニティ拠点として多様な交流ができる場所。2 階の和室スペースには近隣幼稚園の親子連れにご利用いただいている。月に 1 回「キネマえがお食堂」を開催している。

・nijiro\*cafe

nijiro\*cafe のキーワードは、『ふらっと立ち寄れて』『身体に優しいものでお腹を満たして』『心身がほっこりできる空間』。この言葉を意識しながら、全国の農家さん直送の無農薬野菜の販売、それらを使用した料理教室やキッズクッキングを主催している。月に一度開催している子ども食堂でも、このキーワードを大切にこどもたちを迎えている。

・山城 大督 × アプローチ南青山

山城 大督



1983 年生まれ、名古屋在住。美術家・映像ディレクター・ドキュメント・コーディネーター。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)修了。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期過程退学。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開する。2007 年より「Nadegata Instant Party(中崎透+山城大督+野田智子)」を結成し、他者を介させ出来事そのものを作品とするプロジェクトを全国各地で発表。2013 年には個人として 1 年間に渡って映像表現を再考する「東京映像芸術実験室」を展開。本企画より誕生した作品『VIDERE DECK』が第 18 回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品に選出した。

<http://the.yamashirostudio.jp/>

アプローズ南青山	
 <p>絵：山城 大督</p>	<p>一般社団法人アプローズが、平成 26 年 4 月 1 日に開設した、東京都指定障害福祉サービス事業所(就労継続支援 B 型)。大人の発達障害など、障害のある方が、仲間とともにフラワーアレンジメントの技術を学びながら働く場。アプローズの運営する花屋「BISTARAI BISTARAI (ビスターレ・ビスターレ)」では、花を通じたウェルフェアトレードを提唱する日本初のフラワーショップとして、心から喜ばれる花束・アレンジメントを創作している。BISTARAI(ビスターレ)とは、“ゆっくり、ゆっくり”という意味のネパール語。こころやからだに障害のあるアーティストたちが”ゆっくり”と丁寧に完成させる作品に期待と祈りを込め“ビスターレ・ビスターレ”と名付けた。ビスターレは店舗を持たないアトリエスタイルのショップ。贈る方や贈られる方の想いにまで心を寄せたオーダーメイドの商品をひとつひとつ手作りしている。アーティストたちの作品がお客様のものに届くとき、彼らの日常も輝く。贈って楽しく、もらって嬉しく、誰もが笑顔になる happy なギフト。</p> <p>*ウェルフェアトレードとは“Welfare=社会貢献”と“Fair trade=公正な取引”を掛け合わせた造語で、社会的弱者と言われている人たちの作る製品などを適正価格で購入することによる社会的支援活動のことである。</p> <p><a href="http://applause-aoyama.com/">http://applause-aoyama.com/</a></p>
<p>・James Jack × ハーモニー</p>	
James Jack	
	<p>アーティスト。1979 年アメリカ生まれ。アジア各地のグループ展で、社会と深く関わるプロジェクトを展開。アメリカや日本を中心に個展を開催している。また『ISSUE』、『ジャパンタイムス』、Art Asia Pacific、ハワイ現代美術館など多くのメディアや展覧会カタログに論文や記事が掲載される。2008～2010 年、明仁皇太子奨学金フェロー。2015 年、Centre for Contemporary Art (シンガポール)招待作家。現在九州大学ソーシャルアートラボ特別研究員。</p> <p><a href="http://www.jamesjack.org/">http://www.jamesjack.org/</a></p>
ハーモニー	
 <p>絵：James Jack</p>	<p>ハーモニーは世田谷区上町にある、心の病をもちながら暮らしている人が利用する施設。昼食を食べたり、簡単な作業をしたり、困った時に相談をすることができる場所である。</p> <p>登録者は 30 名ほど。見えないはずのものが見えたり、聴こえないはずのものが聴こえたり、なぜか分からないけど強い確信があったり…統合失調症、PTSD、発達障害などと診断されている人が利用している。ゆっくりとしたペースで、それぞれの人が思い思いに日々を過ごしている。</p> <p>ハーモニーでは一般就労や収入を得るという価値観から少し離れて、それぞれに数奇な経験や苦勞を重ねてきた方たちが共に支え合い、安心して自分らしさを発揮できるような場をめざして活動を行っている。</p> <p><a href="http://harmony.exblog.jp/">http://harmony.exblog.jp/</a></p>
<p>・Sam Stocker × ハーモニー</p>	
Sam Stocker	
 <p>Photo: Mutz Ishizawa</p>	<p>1977 年生まれ。ビジュアルアーティストとして、10 年以上にわたりデジタル・ビジュアルアート・ワークショップを企画・運営。英国や日本において青少年や成人を対象にプロジェクトを実施。過去に指導・運営を行ったプロジェクトでは絵画、ビデオ制作、アニメーション、彫刻、グラフィティ、グラフィックデザインを用い、パフォーマンス、展覧会、プレゼンテーションを通してその成果を発表してきた。現在、東京藝術大学大学院美術研究科博士課程油画専攻在籍。</p> <p><a href="http://www.samstocker.com/">http://www.samstocker.com/</a></p>
ハーモニー	
 <p>絵：Sam Stocker</p>	<p>ハーモニーは世田谷区上町にある、心の病をもちながら暮らしている人が利用する施設。昼食を食べたり、簡単な作業をしたり、困った時に相談をすることができる場所である。</p> <p>登録者は 30 名ほど。見えないはずのものが見えたり、聴こえないはずのものが聴こえたり、なぜか分からないけど強い確信があったり…統合失調症、PTSD、発達障害などと診断されている人が利用している。ゆっくりとしたペースで、それぞれの人が思い思いに日々を過ごしている。</p> <p>ハーモニーでは一般就労や収入を得るという価値観から少し離れて、それぞれに数奇な経験や苦勞を重ねてきた方たちが共に支え合い、安心して自分らしさを発揮できるような場をめざして活動を行っている。</p> <p><a href="http://harmony.exblog.jp/">http://harmony.exblog.jp/</a></p>

## ・森山 開次



撮影:石塚 定人

ダンサー・振付家。2001 年エディンバラフェスティバルにて「今年最も才能あるダンサーの一人」と評された後、演出振付出演するダンス作品の発表を開始。2001 年『夕鶴』以降、『KATANA』『弱法師』など和の素材を用いた独自の表現世界で注目を集める。2007 年ヴェネチアビエンナーレ招聘。2012 年発表『曼荼羅の宇宙』にて芸術選奨文部科学大臣新人賞ほか三賞受賞。2013 年スポーツ祭東京(東京国体)開会式 式典演技メインパフォーマー。平成 25 年度文化庁文化交流史。ひびのこづえ、川瀬浩介との協働『LIVE BONE』を国内外 20 都市以上で上演を重ねるほか、演劇・映画・広告など幅広い媒体で活動。

<http://kajimoriyama.com/>

## ・EAT&ART TARO



調理師学校卒業後、飲食店勤務を経てギャラリーや美術館などでケータリングや食のワークショップ、カフェプロデュースなどを行っている。これまでに、自分で購入したものが次の人のものになってしまう、おごることしかできないお店「おごりカフェ」や、瀬戸内海の島々で作った「島スープ」、昭和の料理本を調査収集し、レシピ再現などを行う「レトロクッキング」、美味しいおにぎりを食べるためだけに参加者と共に運動会をする「おにぎりのための、毎週運動会」など食をテーマにした作品を多数発表している。墨東まち見世(東京・墨田区)、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(新潟)、としまアートステーション構想 としまアートステーション Z(東京・豊島区)、瀬戸内国際芸術祭(香川)、中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス(千葉・市原市)など

<http://eat-art.info/>

## ・あわい〜(富塚絵美、佐藤慎也研究室)



アーティストのチョリ(富塚絵美)と日本大学佐藤慎也研究室のメンバーを中心として構成されるパフォーマンス集団で、間(あわい)と淡い空気感を大切に作品を発表する。

富塚絵美、佐藤慎也、西島慧子、堀切梨奈子、今村文悟、大川碧望、鎌田七海、下村耀子、仲村祥平、大場麻莉子、中村直、柳スルキ、大岩郁穂、原碧、他。

## ・大崎 晴地



Photo: Kanagawa Shingo

1981 年東京都生まれ。2014 年東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。博士(美術)。心と身体、発達のリハビリテーション、精神病理学の領野にかかわりながら作品制作、研究活動をしている。近年の「エアートネル」(2013)は児童福祉施設などで発達や療育にも活用している。近年の展示に「新しいループ・ゴールドバーグ・マシーン」(KAYOKO YUKI・駒込倉庫、東京、2016)、「凸凹の凹凸〜さわってみるこの世界〜」(鞆ノ津ミュージアム、広島、2016)等。2015 年に建築家と協働し生活空間のなかにバリアを取り入れる「《障害の家》プロジェクト(Barrier House Project)」を始動。

<http://haruchiosaki.com/>